

超小型！軌陸自動車を開発

アクティオの小型軌陸自動車が登場！！

株式会社アクティオ

総合建設機械レンタル業の株式会社アクティオ(本社：東京都中央区日本橋、代表取締役社長兼COO：小沼直人、以下アクティオ)は、軽トラックをベースにした「小型軌陸自動車」を開発しました。



近年、鉄道を取り巻く環境は、自然災害や人的要因による事故の発生など、電車の車両や線路、架線などを早急に復旧できる鉄道用機械の開発が課題になっています。また、慢性的な人手不足による定期的な軌道点検や保守管理の問題を解決するための鉄道機械技術の飛躍的な向上にも大きな期待が寄せられています。

アクティオは、全国で頻発している台風による土砂災害や河川の氾濫など、ここ数年で深刻化している鉄道復旧の問題等の課題解決の一助となる、高性能な軽トラックの軌陸自動車を開発しました。

「小型軌陸自動車」は、軌道上のせまいスペースでも効率よく作業ができ、簡単に安全に使用できる軽トラックベースの車両を採用、安定した軌陸走行を実現しました。

今回の「小型軌陸自動車」は JR 東日本水戸支社からの要望により、共同開発した商品です。JR 東日本水戸支社での採用を皮切りに、今後、様々なユーザーへ展開していく予定です。

アクティオは今後も社会のさまざまな課題を解決する製品を提供していきます。

■ アクティオ「小型軌陸自動車」特徴

1、軌陸車最小・最軽量！

軽トラックベースの為、狭い踏切でも載線^{※1}・離線が可能です。

※1:載線（さいせん） 車両を線路に載せた状態のこと

2、軌道点検に最適！

従来の軌道点検車両と違い最小2名で載線・離線・軌道点検が可能です。また、載線場所・離線場所の踏切を自由に選べます。

3、安定した軌陸走行を実現

油圧駆動と違いタイヤの動力で鉄輪を駆動し、ブレーキも車輛のペダルと連動していますのでアクセルペダルとブレーキペダルで安全かつ簡単に操作可能です。また、鉄輪走行のため踏切通過時などでの脱線の心配がありません。

4、充実した安全装置

転車台（ターンテーブル）が円形のため載線・退線時にそのままの向きで車両の下に手などを入れることなく作業可能です。また、タイヤ駆動方式に切り替え緊急走行可能です。

非常用ポンプを搭載していますので緊急時手動操作で車輪・転車台の張出・格納等が可能です。



狭軌（1,067mm）



タイヤ動力で鉄輪を駆動



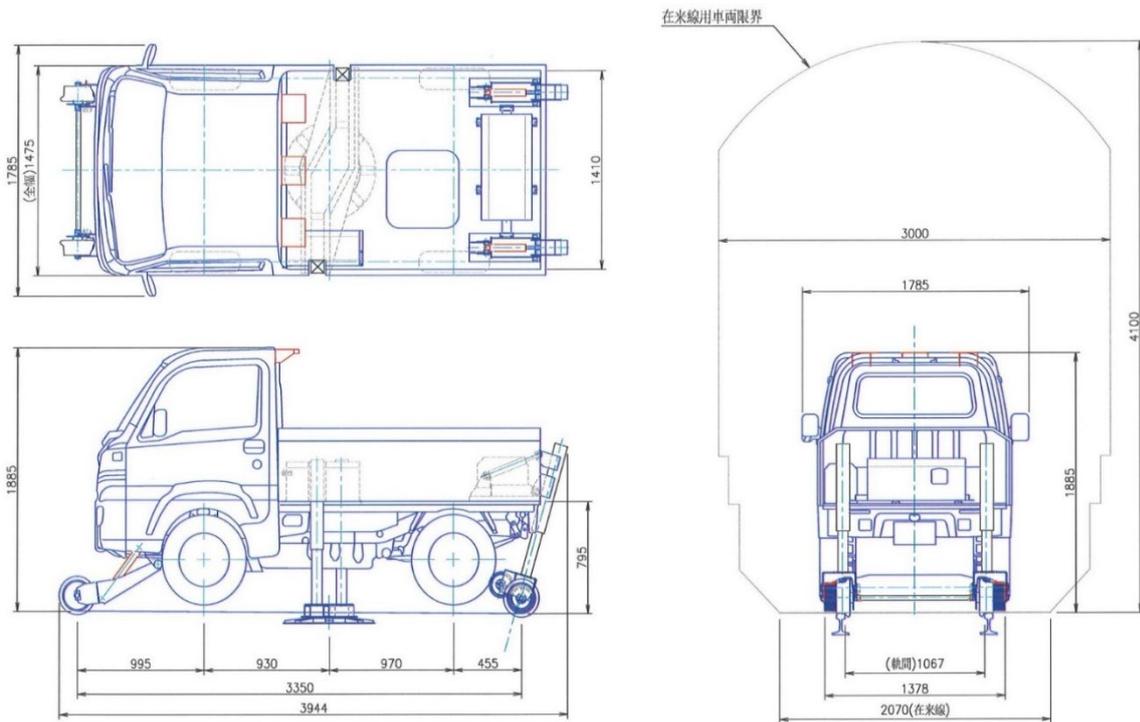
夜間走行時

■ アクティオの「小型軌陸自動車」仕様

車両形式	ホンダ・アクティトラック EBD-HA8	車両寸法	長さ 3,944mm×幅 1,785mm×高さ 1,885mm (載線時)
ミッション	3速オートマチック	鉄車輪径	Ø220mm
燃料	ガソリン	対応軌道幅	1,067mm
乗車定員	2名	鉄輪絶縁	4輪絶縁 ^{※2}
車両重量	1,300kg	軌陸ブレーキ	常用ブレーキ: 後輪タイヤ動力連動式
軌陸駆動方式	タイヤの動力で鉄輪を駆動		サイドブレーキ ON 時 4輪ディスクブレーキ
緊急非常用装置	非常用ポンプ、脱線時復旧用スライドジャッキ、搬送台車、油処理キット、予備バッテリー		

※2:絶縁測定値は、晴天・乾燥時 1MΩ（メガオーム）／500V以上です。

■ アクティオの「小型軌陸自動車」図面



■ アクティオが展開する“レンタルティグ”とは



アクティオのコンセプトである「レンタルティグ」は「レンタル」と「コンサルティング」を合わせた造語で、商標登録しています。会長の小沼光雄は著書の中で次のように紹介します。『従来、建機の世界では「つくる」「売る」という要素が主だったところに、「知恵やノウハウをプラスして貸す」という新たな価値提案をビジネスとして行ったわけです』（算数とハートの経営 2014年 幻冬舎）。現在の建設機械は、非常に高度化しており、せつかくの機能も、現場で最大限に活用することは難しくなっています。目的を果たすため、状況に応じてどの機能をどのように使うのか。アクティオは単に機械を貸すだけでなく、専門的なノウハウを持ってサポートします。建設機械を熟知する専門レンタル会社だからこそ可能な、しかしレンタルの枠組みを飛び出した提

案型のサービスがレンタルティグ。時代とともに、その意義を拡大し、進化を続けています。

【アクティオ公式サイト】[http:// www.aktio.co.jp/](http://www.aktio.co.jp/)

【アクティオ Facebook ページ】<https://www.facebook.com/aktio.jp/>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社アクティオ 鉄道事業部 担当：黒田

TEL: 03-6666-2259

参考出品①

■ 軌陸高所作業車 TC 牽引載線（仮称）



■ 「軌陸高所作業車 TC 牽引載線（仮称）」特徴

- 1、車両の回転に人力が不要。カント^{※3}での載線がより安全となります。
- 2、転車台が不要となることで、機器が簡素化。油漏れリスクの低減、軽量化による GVW7.5t 対応可能。
- 3、載線時に必要な転回占有面積がより小さくなります。
- 4、牽引載線のため、先に載線した軌道走行装置が車両を牽引することで車両を転回させ、前鉄輪を載線ののち、軌道走行姿勢に移行します。

※3:列車が曲線を通る際、外側に遠心力が働くことから、軌道の外側のレールを内側のレールより高くする、この高低差のことをカントと言う。

参考出品②

■ 軌陸両用自走式高所作業車 LWU09-Mk1



■ 「軌陸両用自走式高所作業車 LWU09-Mk1」特徴

- 1、「作業時間を多くとりたい」「終電と始発の間合いが短い」という要望から、現場近くに留め置きが可能で、機材搬入の時間を短縮することを可能にしました。
- 2、「安全で効率的な作業をしたい」「あと少し作業範囲が欲しい」という現場の声から、作業対象に走行し接近が可能にしました。